

## 「絆の大切さを見直そう」

近年、「絆」という言葉をよく見聞きするようになりました。本、歌、映画、テレビ番組のタイトルをはじめ、各種団体、イベント、キャンペーンなどの名前にも使われています。

家庭の崩壊が進み、地域社会においても人間関係が希薄化していることから、さまざまな悲劇がおこっているいまの時代にあって、絆の大切さが見直されてきているようです。

絆をテーマに募集された懸賞エッセーに、ある女子高校生から次のような内容の作品が寄せられました。

彼女が小学四年生のとき、学校でこんなことがありました。

ある日、登校すると下駄箱に上靴が片方しかなく、もう片方はゴミ箱から出てきました。次の日も、その次の日も嫌がらせは続き、上靴は毎日、いろいろな所で見つかりました。

家族にそのことを話すと、みんなと一緒に悲しみ、悩みました。それでも両親は、彼女の前では決して不安な顔を見せず、いつも笑顔で一緒に考えてくれました。母親は、こうってはげましてくれたそうです。

「隠されているのがあなたの靴でよかったなあ。友達の靴やったら、そんな友達を見るのもつらいと思うよ。…あなたもつらいけど、やってる子も何かつらいことがあるんやろなあ。きっと、こんなことするのもつらいと思うよ。」

先生や友達、兄や弟も毎日、一緒に上靴を捜してくれて、いつしか彼女は笑顔で学校へ行けるようになりました。そんなことが続いたある日、学校へ行くと、下駄箱に上靴がちゃんと入っていました。先生も友達も家族も、みんな自分のことのように喜んでくれました。

彼女はこう記しています。

「振り返れば、毎日一緒に捜してくれた人への『ありがとう』の一言から一日が始まる、素晴らしい日々だったんだなと思います。あんなに苦しい日々を乗り越えられたのも、苦しみを喜びに変えることができたのも、先生や友達、そして何より、家族がいつも支えてくれたからです。」(天理教道友社編『つながり合って 生きる—公募エッセー「絆」から』より)

このような問題が起こったとき、犯人捜しに躍起になったり、学校や教師の責任を追及したりしがちですが、この家族は誰も悪者にする事なく、支え合って、明るく前向きに乗り越えています。

家族の絆の大切さ、そして、人はつながり合って、支え合って生きているのだということを、しっかりと子供に伝えたいものです。